

「家計・くらしの調査」・「消費税しらべ」結果発表

ステイホームで食費増、外食費減。消費支出月額平均は17,000円減少

- ✓ コロナ禍で交際費・娯楽費の出費を控えたためか、その他消費支出は減少
- ✓ 消費増税の影響で税負担額が増加。低所得層ほど負担率が高く

日本生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連、代表理事会長：土屋敏夫）は、組合員の家計とくらしの変化を捉え、社会に発信することを目的に、1978年より全国的な家計調査に取り組み、2018年からはインターネットによる「家計・くらしの調査」を実施しています。この度、2020年度の「家計・くらしの調査」結果を取りまとめましたのでご報告いたします。（有効回答数：749件）

また今回、「家計・くらしの調査」の参加モニターを対象に、消費支出に占める消費税の金額を調査する「消費税しらべ」を実施しましたので、合わせて結果をご報告いたします。（有効回答数：533件）

～調査結果の主なトピック～

【家計・くらしの調査】

<収入>

■ 世帯収入の月額平均※は前年比14,541円減少の634,107円に。年代別で増減に差も

組合員モニターの2019年と2020年の収入を比較したところ、2020年の収入月額平均は634,107円と2019年より14,541円低い結果となりました。年代別で見ると増減があり、30代以下では48,208円増加している一方で、40代では5,556円、50代では31,469円、60代は31,323円減少しています。

※世帯収入の月額平均は、年収を12ヵ月で割った金額です。

<支出>

■ 消費支出の月額平均は前年比約17,000円減少。「食費」が増え「外食費」が減少。

コロナ禍で交際費・娯楽費減少の影響を受けてか、その他消費支出は30代以下を除き減少

2020年の全体の支出（月額）は349,538円で2019年より約17,000円減少しました。年代別に見ると、50代以上は20,000円以上の減少が見られましたが、40代以下の支出額の減少は極わずかでした。支出費目別では、ステイホームが影響してか全世代で食費が増え、外食費は減っています。また、コロナ禍で交際費・娯楽費が減少したためか、「その他の消費支出」は30代以下を除き減少し、特に50代以上では20,000円以上の減少となりました。

<収支>

■ 年間収支平均は600万円未満の世帯で赤字に。400万円未満世帯では約35,000円赤字が増加

年収別に2019年と2020年の年間収支平均を比較したところ、世帯年収600万円以上の世帯で黒字幅が大きかったことが影響し、全体では778,006円の黒字となり、2019年より約23,000円高い結果になりました。年収別に見ると、600万円未満世帯では2019年同様2020年も赤字となり、400万円未満世帯では約35,000円赤字が増えていることがわかりました。

【消費税しらべ】

■ 消費増税の影響で全体の税負担額が増加。所得の低い世帯ほど負担率が高くなる傾向

2020年の消費税額の月平均額は23,696円と、前年より2,181円増加しました。新型コロナウイルスの影響で軽減税率適用の食費が増加し、交際費、娯楽費などを含むその他の消費支出や外食費など10%課税となる支出は抑えられましたが、全体で見ると税負担額が増加しました。2019年10月の税率引き上げの影響が数値に反映したものとわれます。

また、消費税負担額と収入に占める割合をみると、所得階層が低い世帯ほど負担の割合が高い傾向にあります。

<お問い合わせ先>

日本生協連 広報部
TEL：03-5778-8106

<参考資料>

■調査概要

「家計・くらしの調査」

調査方法：インターネット

調査対象：全国の協力生協

有効回答数：749件

実施期間：2020年1月～12月

「消費税しらべ」

調査方法：インターネット

調査対象：全国の協力生協

有効回答数：533件

実施期間：2020年1月～12月

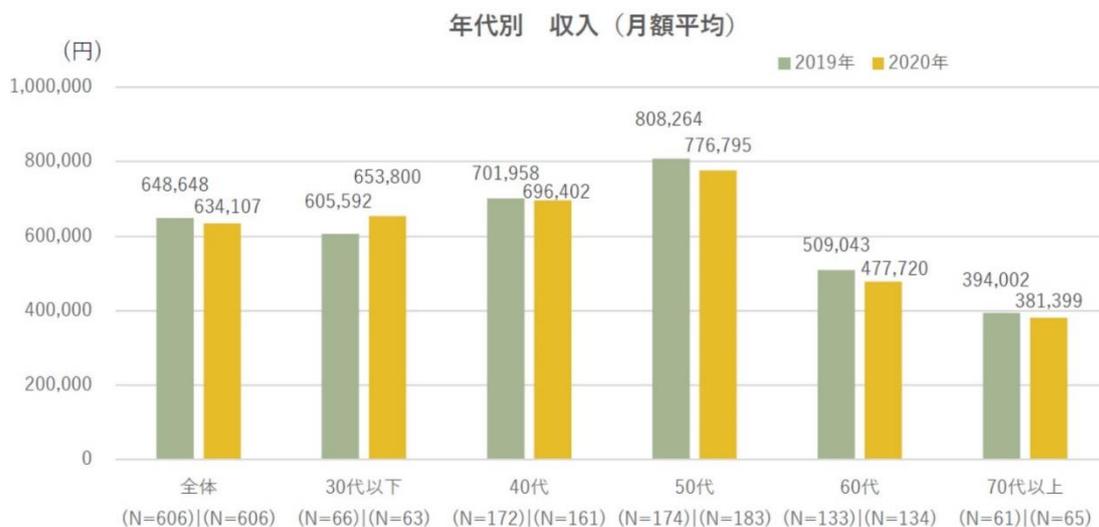
【家計・くらしの調査】

①収入

■世帯収入の月額平均※は前年比14,541円減少の634,107円に。年代別で増減に差も

2019年と2020年の組合員モニターの収入を比較したところ、全体では634,107円と2019年より14,541円低い結果となりました。年代別に見ても40代以上の全ての世代で2019年より2020年が低い結果となりました。しかし、30代以下の世代では2020年の平均収入が653,800円と2019年と比べると48,208円増加しています。

※世帯収入の月額平均は、年収を12ヵ月で割った金額です。



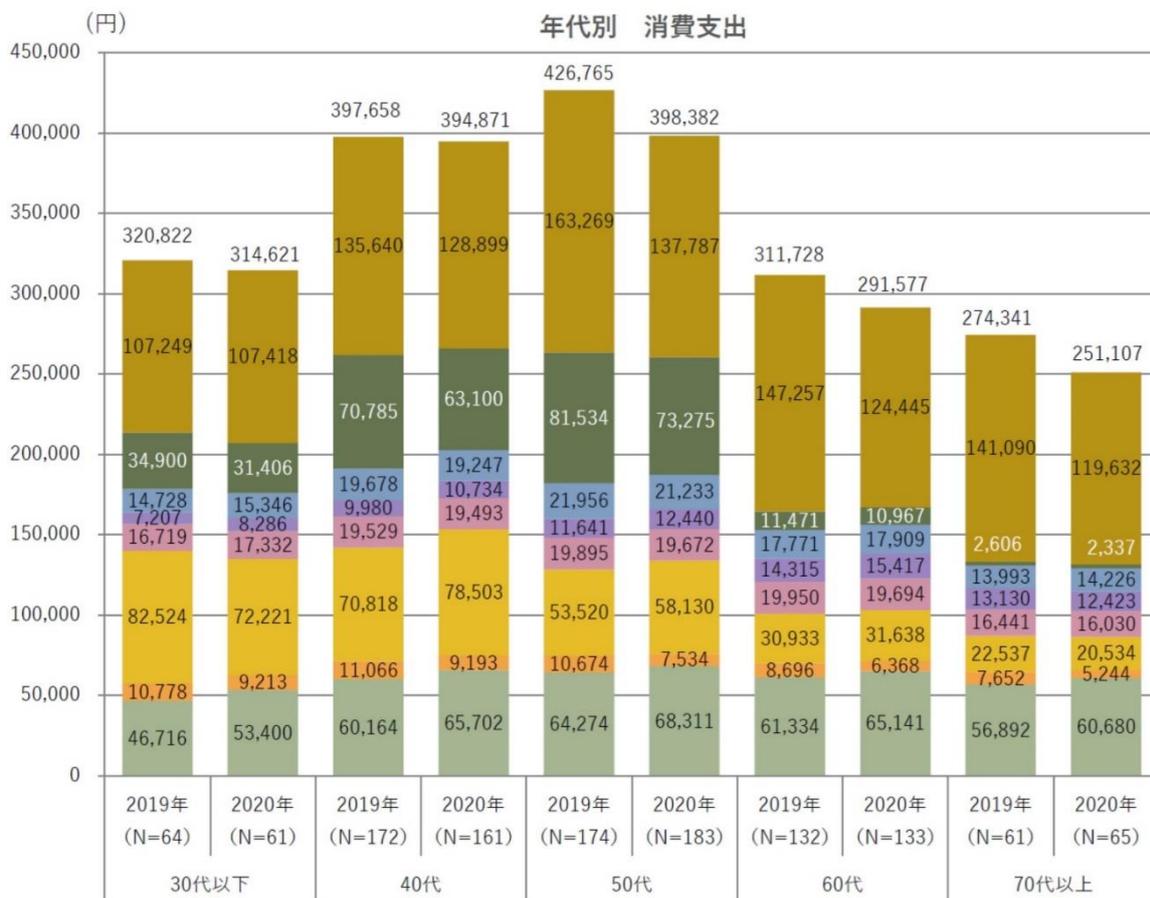
②支出

■消費支出の月額平均は前年比約17,000円減少。「食費」が増え「外食費」が減少。

コロナ禍で交際費・娯楽費減少の影響を受けてか、その他消費支出は30代以下を除き減少

2020年の全体の支出（月額）は349,538円で2019年より約17,000円減少しました。年代別に見ると、50代以上は20,000円以上の減少が見られましたが、40代以下の支出額の減少は極わずかででした。支出費目別では、ステイホームが影響してか全世代で食費が増え、外食費は減っています。また、コロナ禍で交際費・娯楽費が減少したためか、「その他の消費支出」は30代以下を除き減少し、特に50代以上では20,000円以上の減少となりました。

また、「教育費」の項目に着目すると、全体的に減少しています。家計管理に詳しい 埼玉大学教育学部 重川純子教授は「教育費は、所得制限付きながら幼稚園や高等学校の授業料や保育園の保育料の無償化の拡充の影響もあってか減少しています。削減率は各年齢の平均では1割程度で、依然支出の中の大きな割合を占めています。授業料の問題だけではありませんが、まずは更なる支援策が期待されます。」とのコメントを寄せています。



■ 食費
■ 外食費
■ 住居費
■ 水・光熱費
■ 保健医療費
■ 通信費
■ 教育費
■ その他の消費支出

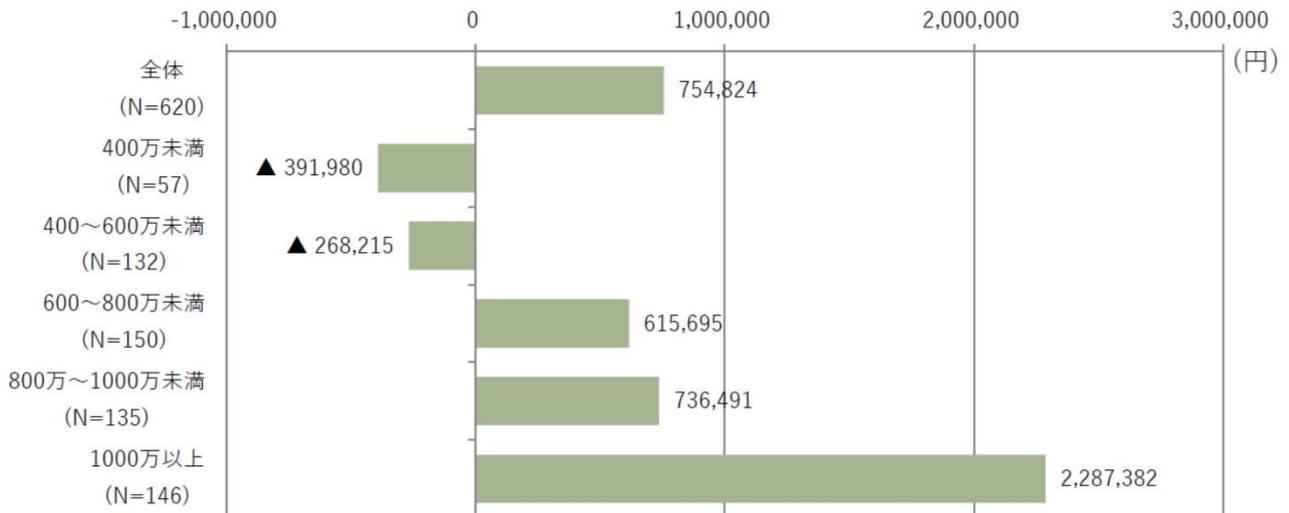
③収支

■年間収支平均は600万円未満の世帯で赤字に。400万円未満世帯では約35,000円赤字が増加

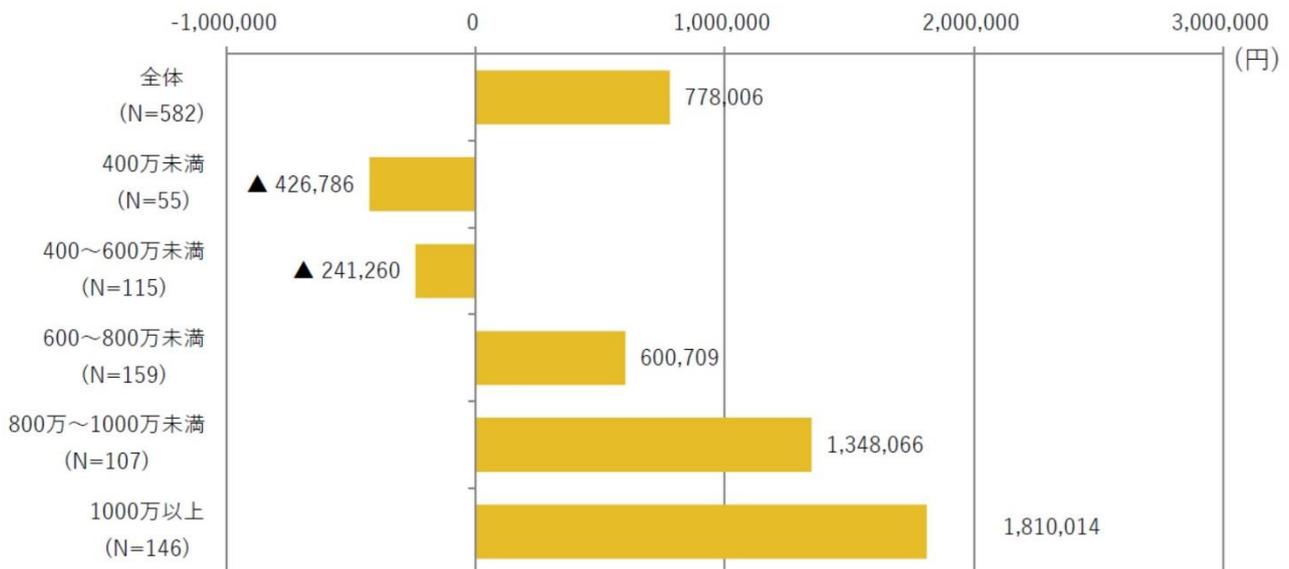
年収別に2019年と2020年の年間収支平均を比較したところ、世帯年収600万円以上の世帯で黒字幅が大きかったことが影響し、全体では778,006円の黒字となり、2019年より約23,000円高い結果になりました。年収別に見ると、600万円未満世帯では2019年同様2020年も赤字となり、400万円未満世帯では約35,000円赤字が増えていることがわかりました。

※不動産関連の大きな収入の影響を避けるため、「その他収入」を除きます。

【2019年】年収別 年間収支平均（給与世帯）



【2020年】年収別 年間収支平均（給与世帯）



【消費税しらべ】

■ 消費増税の影響で全体の税負担額が増加。所得の低い世帯ほど負担率が高くなる傾向

2020年の消費税額の月平均額は23,696円と、前年より2,181円増加しました。新型コロナウイルスの影響で軽減税率適用の食費が増加し、交際費、娯楽費などを含むその他の消費支出や外食費など10%課税となる支出は抑えられましたが、全体で見ると税負担額が増加しました。2019年10月の税率引き上げの影響が数値に反映したものとされます。

また、消費税負担額と収入に占める割合をみると、所得階層が低い世帯ほど負担の割合が高い傾向にあります。

